

# 日本昆虫学会第 66 回大会

(2006)  
プログラム



## 大会日程表

		会 場							
月 日	時 間	A会場 (30号教室)	B会場 (32号教室)	C会場 (40号教室)	D会場 (42号教室)	E会場 (43号教室)	F会場 (44号教室)	G会場 (45号教室)	
9月16日 (土)	10:00~12:00	行動	生態・生活史	系統・進化	分類・形態・発生				
	13:00~15:00	行動	生理・生態・生活史	系統・進化	分類・形態				
	15:15~16:00	学会賞授与および受賞講演 (総会会場 101号教室)							
	16:00~17:45	総 会 (総会会場 101号教室)							
	18:00~20:30	懇 親 会 (鹿児島大学生協 郡元南食堂エデュカ)							
9月17日 (日)	9:00~12:00	多様性	生理・生態・生活史	系統・進化	分類・形態				
	13:00~14:15	多様性	生態・生活史	系統・昆虫機能	分類・形態				
	14:30~17:00	シンポジウム 1 (101号教室)							
	17:30~19:30	小 集 会							
		第15回昆虫担当学芸員協議会総会	ハナバチ談話会	第7回ゴール形成昆虫シンポジウム	昆虫による環境影響評価研究会	地表性甲虫談話会	第5回穿孔性昆虫を語る会	第8回昆虫の季節適応談話会	
9月18日 (月)	9:30~12:00	多様性	生態・生活史	害虫防除・生理活性物質	分類・形態				
	13:00~15:30	シンポジウム 2 (101号教室)				シンポジウム 3 (102号教室)			
	16:00~18:00	小 集 会							
		侵略的外来アリ問題を考える	双翅学会	昆虫分類学若手懇談会シンポジウム	日本半翅類学会	日本鞘翅学会特別例会	食植性昆虫研究会	里山昆虫談話会	

会期：平成 18 年 9 月 16 日(土)~18 日(月)

会場：鹿児島大学教育センター共通教育棟

鹿児島市郡元 1 丁目 21 番 30 号

## 目 次

大会日程	表紙
連絡事項	1
各種会議のお知らせ	3
学会賞授賞式・学会賞受賞講演	3
日本昆虫学会第66回総会案内	3
懇親会案内	3
小集会	
第2日目(9月17日)	4
第3日目(9月18日)	5
一般講演およびシンポジウム	
第1日目(9月16日)	7
第2日目(9月17日)	9
第3日目(9月18日)	12
大会参加者名簿	14
会場案内図	17
大会会場までの案内図	18

\* \* \* \* \*

## 大会役員

大会実行委員長：櫛下町 鉦敏(鹿大・農)

事務局長：山根 正気(鹿大・理)

事務局幹事：福田 晴夫、小野田 繁、二町 一成、熊谷 信晴(鹿児島昆虫同好会)、幾留 秀一(鹿児島女子短大)、田中 章(バイエルクロップサイエンス)、中峯 浩司(鹿児島県博)、橋元 祥一(鹿児島農総セ・果樹)、上和田秀美、井上栄明(鹿児島農総セ)、曾根 晃一、津田 勝男、坂巻 祥孝(鹿大・農)

### 日本昆虫学会第66回大会事務局

〒890-0065 鹿児島市郡元一丁目 21-24

鹿児島大学農学部害虫学研究室 (坂巻祥孝)

Tel. & Fax.: 099-285-8684

e-mail: gakkai66@ms.kagoshima-u.ac.jp

郵便振替口座 日本昆虫学会第66回大会実行委員会 (01730-2-62960)

## 連絡事項

1. 受付 9月16日(土) 午前9時から、鹿児島大学教育センター共通教育棟玄関ロビーで行います。
2. 講演時間 一講演あたり15分(発表12分、質疑3分)を厳守願います。予鈴10分、本鈴12分、終鈴15分で時間をお知らせします。講演取り消しがあった場合は時間を繰り上げず、空き時間とします。
3. 座長 発表終了者には、次の講演の座長をお願いします。午前および午後の最初の講演の座長は大会事務局で対応します。
4. 液晶プロジェクターによる発表 原則としてMicrosoft Power Point®でファイルを作成し、コンパクトディスク(CD)に保存してください。PDFファイルをAdobe Reader®によって発表する方も同様です。発表の前にPCルーム(4階46号教室)で、Power Point 2003 for Windows(あるいはAdobe Reader®7.0)のインストールされたノートパソコン(OSはWindows XP®)で、ご自身のプレゼンテーションの動作チェックを必ず行って下さい。講演される方は、ご自身の発表の一つ前の講演中にCDを会場内の係員にお渡しください。開始後は講演者の指示に従って係員がパソコンを操作します。また、申し出ていたければ、講演者ご自身でパソコンを操作することもできます。(ただし、PDFファイルによる発表をなさる方はご自身でパソコンを操作ください。)講演終了後にCDをお受け取りください。CDは650MBあるいは700MBのCD-Rのみとします(CD-RW、USBフラッシュメモリーは不可)。講演者の質疑応答中に次講演のCDを立ち上げますので、質疑応答中の再投影はできません。ファイルを作成する際には次頁の「Microsoft Power Point®でファイルを作成する際の注意」をお読みください。
5. OHPによる発表 OHPの発表はご自身でお願いします。
6. 小集会 必要な物品は小集会の始まる30分前までに大会本部に用意しておきます。運営はそれぞれの世話人の責任で行ってください。液晶プロジェクター、OHPおよびノートパソコンは事前に申し込まれている場合のみ貸し出しますので、世話人の方は御注意ください。事前申し込みしていない場合には御自身での準備をお願いします。
7. 懇親会 9月16日(土:第1日目、午後6時より鹿児島大学生協、郡元南食堂「エデュカ」(発表会場より北辰通りを南に徒歩8分)にて行います。
8. 名札 受付で名札をお渡しします。名札カードで懇親会申込者を区別しますので、懇親会会場では必ず名札をお付けください。
9. 喫煙 建物内はすべて禁煙です会場周辺屋外の指定の喫煙場所(灰皿のあるところ:17ページ参照)でお願いします。
10. 駐車場 キャンパス内への車の乗り入れはできません。自家用車でお越しの方は大学周辺のコインパーキングなどをご利用ください。
11. 昼食 会場周辺に食堂やコンビニエンスストアもありますが、学会期間中16日(土)~18(月)は昼11:30~13:30まで鹿児島大学生協中央食堂が営業しています。是非御利用下さい。
12. 荷物 会場(共通教育棟)2階に荷物置き場(20号教室)を準備しました。ただし、クロークではありませんので、利用される方はご自身の責任で荷物を置いてください。

## Microsoft Power Point®でファイルを作成する際の注意

OS や Power Point®に様々なバージョンが存在するため、投影時にトラブルが予測されます。本大会でプレゼンテーションに使用するコンピューターのOSはWindows XP®、アプリケーションはMicrosoft Power Point® 2003です。ディスク作成後、別のコンピューターのMicrosoft Power Point® 2003 for Windowsにおいてファイルが正常に動作することを確認して頂けるとトラブルを最小限にできます。会場内に発表で用いるものと同スペックのコンピューターを置いたPCルーム(会場4階、46号教室)を用意しますので最終確認にお使いください。また、以下のことにご注意ください。

- ・写真などの画像を使用する場合、PowerPoint®上で縮小、回転などをせずに、あらかじめ画像ソフト等で実際に使用するサイズ・解像度（100dpi程度）に縮小してからPower Point®に挿入してください。あまりファイルサイズの大きな画像を使用すると、表示できなかつたり、動作が極めて遅くなつたりします。
- ・動画を使用する場合、Windows Media Player が標準で再生できる形式に限ります(AVI や mpeg)、Quick Time や Real Player は対応できません。DivX などの特殊な codec を使用することは避けてください。使用動画はCDと一緒にコピーするようにして、リンク切れにご注意ください。
- ・コンピューター・液晶プロジェクター共に画面の解像度はXGA（1024×768）です。このサイズよりも大きい場合にはスライドの一部が表示できないことがあります。
- ・原則として音を出すことは禁止します。
- ・事前にご自身でウイルスチェックを行ってください。
- ・緑色を背景として赤色の文字を映写するといったスライドは避けてください。

### 円滑な運営のために、CD-Rの取扱は以下の点にご注意ください。

- ・1 講演につき1枚のCDを用い、CDには講演用のファイル以外は入れないでください。
- ・ファイル名は原則「講演番号.ppt」としてください。Adobe Reader 発表の方は「講演番号.pdf」としてください。特にMacintoshをご使用の方は拡張子(ファイル名最後の「.ppt」、あるいは「.pdf」)を付けることを忘れないでください。
- ・CD-Rは注意して扱い、ケースに入れてお持ちください。CDは本体またはケースに講演番号とお名前をお書きください。不測の事態に備えてバックアップデータもお持ちください。
- ・CD-Rにデータを保存する時は、必ずWindows用のフォーマット（IS09660）で、ファイナライズ（ソフトによっては「CDのセッションを閉じる」などの表現が使われています）を行ってからにしてください。これを怠った場合ファイルが開けなくなります。

## 各種会議のお知らせ

大会前日 9月15日(金)

13:00~14:00	日本昆虫目録編集委員会(20号教室) 電子化推進委員会(34号教室) 日本の昆虫編集委員会(35号教室)
14:00~15:00	編集委員会(20号教室) 自然保護委員会(34号教室)
15:00~15:30	幹事会(20号教室)
15:30~18:00	評議委員会(20号教室)

## 学会賞授与式および受賞講演(第1日目)

(共通教育棟1階:101号教室) 9月16日(土)15:15~16:00

**T101** 講演予定者:北原正彦(山梨県環境科学研究所)

受賞論文:Masahiko KITAHARA and Koichi FUJII (2005) Analysis and understanding of butterfly community composition based on multivariate approaches and the concept of generalist/specialist strategies. *Entmol. Sci.* **8** (2): 137-149.

**T102** 講演予定者:笹川幸治(東京大学農学生命科学研究科)

受賞論文:Kôji SASAKAWA and Kôhei KUBOTA (2005) Cryptic species of the subgenus *Morphnosoma* Lutshnik (Coleoptera: Carabidae; genus *Pterostichus*) from Japan. *Entmol. Sci.* **8** (4): 389-404.

## 日本昆虫学会 第66回総会(第1日目)

(共通教育棟1階:101号教室) 9月16日(土)16:00~17:45

## 懇親会(第1日目)

(鹿児島大学生協 郡元南食堂エデュカ) 9月16日(土)18:00~20:30

## 小集会(第2日目)

9月17日(日) 17:30~19:30

### 「第15回昆虫担当学芸員協議会総会」(A会場:30号教室)

世話人: 金沢 至・初宿成彦・松本吏樹郎(大阪市自然史博)

テーマ: 「種情報データベースの構築と利用」

- AW201** ○多田内修(九大・農・昆虫)・金沢至(大阪市自然史博): アジア産農林害虫・有用昆虫の種情報の体系化・ネットワーク化と分散検索システム
- AW202** ○神保宇嗣・伊藤元己(東大院・総合文化・広域システム)・上田恭一郎(北九州自然史歴史博): 種情報データベースと GBIF
- AW203** ○友国雅章・篠原明彦(国立科博): 国立科学博物館におけるデータベースの構築
- AW204** 中原正登(佐賀県立宇宙科学館・佐賀県立博物館): 佐賀県立宇宙科学館におけるデータベースの構築

### 「ハナバチ談話会」(B会場:31号教室)

世話人: 宮永龍一(島根大・生物資源科学部)

- BW201** 郷右近勝夫(東北学院大・工): 砂浜環境における特異的な送粉生態系について - 近接する2つの砂浜環境でのハナバチ相構成の比較 -
- BW202** 岩田眞木郎(九州東海大学・農): ミツクリヒゲナガハナバチとニッポンヒゲナガハナバチの刷毛と訪花性について

### 「第7回ゴール形成昆虫シンポジウム」(C会場:40号教室)

世話人: 徳田誠(産総研)、杉浦真治(森林総研)

テーマ: 「ゴール形成アブラムシにおける社会システムの成立・維持機構: 生態から分子まで」

- CW201** 柴尾晴信(東大院・総合文化): ゴール形成する社会性アブラムシにおける階級分化と社会制御
- CW202** 沓掛磨也子(産総研・生物機能工学): ゴールを守る兵隊アブラムシの社会行動に関わる分子基盤

### 「昆虫による環境影響評価研究会」(D会場:42号教室)

世話人: 坂井誠(共生科学)・祝輝男(地域環境計画)・木村正明(GA-SHOW)

- DW201** 坂井誠(共生科学): 全国都道府県のレッドリストのバラツキと問題点について
- DW202** 池崎博文(長崎女子短大): 長崎県レッドデータブックの編纂とその問題点
- DW203** 岸本年郎(自然環境研究センター): 環境省版および地方版レッドデータリストカテゴリーの現状

### 「地表性甲虫談話会」(E会場:43号教室)

世話人: 堀繁久 (北海道開拓記念館)

- EW201** 山下伸夫(東北農業研究センター): 農業環境におけるゴミムシの活動消長と雑草種
- EW202** 野村周平(国立科学博物館): ニュージーランドのアリヅカムシ、その他甲虫

### 「第5回 穿孔性昆虫を語る会」(F会場:44号教室)

世話人：梶村恒(名大・院・生命農)・荒谷邦雄(九大・院・比文)

- FW201** 後藤秀章(森林総研九州)：養菌性キクイムシ類 Xyleborini 族の菌嚢の形態と進化  
**FW202** ○新美輝幸・増本三香・大島宏之・柳沼利信(名大・院・生命農)：カブトムシの角形成メカニズムの解明をめざして  
**FW203** 三浦徹(北大・地球環境)：環境要因によるボディプランの修飾機構 —社会性昆虫のカーフト分化

### 「第8回昆虫の季節適応談話会」(G会場:45号教室)

世話人：沼田英治(大阪市大・理)・渡康彦(芦屋大・教育)

- GW201** 岩井幸夫(神戸大・自然科学/現所属, 東洋紡績株式会社バイオ事業総括部)：カイコ時計遺伝子の構造と転写リズム  
**GW202** 上地奈美(学振特別研究員・沖縄農研センター)：季節的に異なる寄主植物を利用するハリオタマバエ属タマバエ類  
**GW203** 片桐千仞(北大・低温研)：春をむかえるための昆虫の冬対策 —脂質の視点から

## 小集会(第3日目)

9月18日(月)16:00~18:00

### 「侵略的外来アリ問題を考える」(A会場:30号教室)

世話人：岸本太郎(自然環境研究センター)

- AW301** 環境省自然環境計画局野生生物科外来生物対策室：外来生物法の概要と施行の状況について  
**AW302** ○伊藤文紀(香川大)・頭山昌郁(榊七福)：アルゼンチンアリが在来生物相に及ぼす影響  
**AW303** ○寺山守・西末浩司・砂村栄力・田付貞洋(東大)：合成道しるべフェロモンを用いたアルゼンチンアリ防除の試み  
**AW304** 岸本太郎(自然研)：台湾におけるヒアリの生息実態と防除体制

### 「双翅学会」(B会場:32号教室)

世話人：鳶 洪 (九大・院・比文)

- BW301** 湯川淳一：第6回双翅目国際会議について

### 「昆虫分類学若手懇談会シンポジウム」(C会場:40号教室)

世話人：山田量崇・山本直 (大阪府大院・生命環境・昆虫)

テーマ：「DNA バーコーディングと今後の昆虫学の方向性」

- CW301** 伊藤元己(東大院・総合文化・広域システム)：“Barcode of Life” プロジェクトの現状と今後の展望  
**CW302** 多田内修(九大・農・昆虫)：昆虫類のDNA情報証拠コレクション  
**CW303** ○神保宇嗣・加藤俊英・吉武 啓(東大院・総合文化・広域システム)：同定ツールとしてのDNAバーコード：鱗翅類を例として

**CW304** ○吉武 啓・加藤俊英・神保宇嗣(東大院・総合文化・広域システム)：分類・系統学的研究における DNA バーコーディング：ゾウムシ類を例として

**CW305** ○須島充昭・加藤俊英(東大院・総合文化・広域システム)：未成熟期の記載における DNA バーコーディングと生活史研究への応用 ―クロバネキノコバエ科 *Ctenosciara japonica* を例として―

### 「日本半翅類学会」(D 会場:42 号教室)

世話人：友国雅章 (国立科学博物館)

演題及び講演者： 未定

### 「日本鞘翅学会特別例会」(E 会場:43 号教室)

世話人：小島弘昭(九州大学総合研究博物館)

テーマ「南西諸島の甲虫相と生物地理」

**EW301** 保科英人(福井大・教育地域科学)：琉球産ハネカクシ上科のマイナーファミリーについて

**EW302** 高橋直樹(九大・生防研)：南西諸島におけるジョウカイボン相

**EW303** ○細谷忠嗣(京大・院・理)・荒谷邦雄(九大・院・比文)：琉球列島におけるクワガタムシ科を中心としたコガネムシ上科の系統生物地理

### 「食植性昆虫研究会」―送粉共生が導く生物多様性― (F 会場:44 号教室)

世話人：小林憲生・松林圭(北大総合博物館)

**FW301** ○川北篤(京大・院・人環)・加藤真(京大・院・人環)：コミカンソウ科―ハナホソガ属における絶対送粉共生系の進化

**FW302** ○竹中宏平(長崎大・熱帯医学研)・戸田正憲(北大・低温研)：タロイモショウジョウバエ属(双翅目：ショウジョウバエ科)の繁殖生態およびサトイモ科植物との送粉共生

### 「里山昆虫談話会」(G 会場:45 号教室)

世話人：石井実(大阪府大)・立川周二(東京農大)

**GW301** 礪脇桃子(鹿大・理)：鹿児島市平田の里山におけるトンボ相

**GW302** ○田代和馬・長濱梢・林加奈子・宿里宏美・原田豊(池田高校)：鹿児島県薩牟田池周辺地域のアリ相

**GW303** ○鈴木雄太・立川周二(東京農大)・小林隆人(宇都宮大)：棚田の畦に生息するシルビアシジミの生態と保全

**GW304** 小林隆人(宇都宮大)：里山林はオオムラサキにとって本当に生息地か

# 一般講演

## 第1日目(9/16)午前

	A会場	B会場	C会場	D会場
10:00	A101 ○大場信義(産総研関西センター)・付新華(華中農大) 日本と中国のマドボタル属2種の防衛忌避物質分泌とその器官の比較	B101 ○新部一太郎・星川和夫(島根大・生物資源) 洞窟動物にとっての餌資源環境と洞窟周辺の地下間隙への類似環境の広がり	C101 ○加賀谷悦子・横原寛(森林総研) 先島諸島におけるインガキゴマフカミキリ種群の系統地理	D101 ○塘 研(筑波大・生命環境科学)・町田龍一郎(筑波大・菅平高原実験センター) ラクダムシ <i>Inocellia japonica</i> Okamoto の羊漿膜褶形成(昆虫綱・脈翅目・ラクダムシ亜目)
10:15	A102 ○伊勢巳希子・新垣朋子・藤山直之(北教大・函館・生物) <i>Cassida</i> 属カメノコハムシ2種間にみられる種間交尾とその方向性	B102 ○田中陽介・小島純一(茨城大・理) オンブバッタの体色決定要因と野外の体色比	C102 ○小林憲生(北大・総博)・太田有理(北大・院・理)・鈴木誠治(長岡技大)・片倉晴雄(北大・院・理) センチコガネにおける核に転移したミトコンドリアDNA	D102 ○前川清人・水野さやか・石谷恭子・白崎一佳(富山大・理)・越川滋行・三浦徹(北大院・地球環境) ヤマトシロアリにおける複眼と卵巣の発達と制御
10:30	A103 ○藤山直之・鳥居千春・赤羽根路子(北教大・函館・生物)・片倉晴雄(北大・院・理) ヤマトアザミテントウとアオカメノコハムシの産卵場所選択の特性	B103 ○岩田昇・石井実(大阪府大院・生環・昆虫) 堺市におけるウスバキトンボの季節消長	C103 ○北村徳一(都立大院・理・生物)・藤山直之(北教大・教育・函館)・青塚正志(首都大・都市教養・生命) 函館に分布する核型の異なるヨモギハムシの生殖隔離	D103 ○土屋真利子・前川清人(富山大・理) ヤマトシロアリの個体間相互作用による兵隊分化調節と体内JH量の関係
10:45	A104 ○佐藤綾(琉大・理)・桃下大(長崎総合科学大付属高校)・堀道雄(京大・院・理) 潮間帯性ヨドシロヘリハンミョウにおける潮汐リズムを示す行動	B104 ○田中幸一・浜崎健児・山中武彦・中谷至伸(農環研) モノサシトンボ成虫の個体群サイズおよび生存率の推定	C104 ○細谷忠嗣(京大・院・理)・近雅博(滋賀県立大・環境科学)・荒谷邦雄(九大・院・比文) クロツヤムシ科ツツクロツヤムシ亜科の分子生物地理—東南アジアへの侵入経路はオーストラリア大陸?インド亜大陸?—	D104 山内健生(広島大・院・国際協力) 日本産および台湾産カマキリモドキ科の分類学的再検討
11:00	A105 ○一木良子(国際農研)・戒能洋一(筑波大・生命環境)・中村達(国際農研) 寄主の食草に産卵するカイノクワジバエの植物探索:加害植物の匂いに体する反応	B105 ○平田慎一郎(きしわだ自然資料館)・石井実(大阪府大院・生環・昆虫) ツマグロカマキリモドキ1齢幼虫の寄生クモの推測	C105 ○土岐和多瑠・久保田耕平(東大院・農学生命・森林動物) 日本産ヒゲナガカミキリ族の系統と繁殖性質及び食性の進化	D105 ○大島康宏・矢田脩(九大院・比文・生物体系) イチモンジチョウ亜族 <i>Linemitidina</i> (チョウ目, タテハチョウ科)における属レベルの分類学的再検討と生物地理
11:15	A106 ○花塚正裕(北大院・農・昆虫体系学)・近雅博(滋賀県大・環境生態) 滋賀県犬上川におけるナベバタムシ ( <i>Aphelocheirus vittatus</i> ) の生息環境と環境選択性	B106 安藤喜一(弘前市) 『オオカマキリが高い所に産卵すると大雪』は本当か?	C106 ○太田有理・小林憲生(北大・院・理)・松林圭(北大・総博)・片倉晴雄(北大・院・理) オオニジュウヤホシテントウ種群におけるミヤマニガウリ利用能力の地理的パターン	D106 ○勝山礼一朗・矢田脩(九大院・比文・生物体系) チャイロフタオチョウ属 <i>Charaxes</i> (鱗翅目, タテハチョウ科) <i>soIon</i> 種群の分類学的再検討と生物地理
11:30	A107 ○福谷美智・石井実(大阪府大院・生環・昆虫) コオイムシ雌雄成虫の子に対する共食い頻度の違い	B107 ○桑原大樹・石井実(大阪府大院・生環・昆虫) ギフチョウの生息する落葉樹林における光環境の季節変化	C107 ○松林圭・片倉晴雄(北大・院・理) 近縁種間での生殖隔離の定量化	D107 ○岩崎浩明・矢田脩(九大院・比文・生物体系) 発香鱗の微細構造に基づくマルバネシロチョウ属 <i>Cepora</i> を中心としたモンシロチョウ亜科の分類学的再検討(チョウ目: シロチョウ科)
11:45	A108 ○上船雅義・塩尻かおり・釘宮聡一(京大・生態研)・佐野孝太(曾田香料<株>)・高林純示(京大・生態研) コナガコマユバチはどのようにHIPVを認識し、利用しているのか?	B108 ○谷川哲朗・石井実(大阪府大院・生環・昆虫) ギフチョウ蛹の成虫分化の進行と過冷却点の変化	C108 ○菊田尚吾・藤山直之(北教大・函館・生物)・片倉晴雄(北大・院・理) 食草能力の遺伝構造からみたヤマトアザミテントウ分布北限の維持要因	D108 ○橋本恵・矢田脩(九大院・比文・生物体系) コモンマダラ属 <i>Tirumala</i> 内のフェロモン運搬粒子PTPsの微細構造の比較(チョウ目: マダラチョウ科)

第1日目(9/16)午後

	A会場	B会場	C会場	D会場
13:00	A109 ○井上牧子・遠藤知二(神戸女学院大・人間科学) 地中におけるヒメハラナガツチバチの宿主探索過程:どのように手がかりと宿主を見つけるのか?	B109 ○畑田彩(総合地環研)・松本和馬(森林総研・多摩森林科学園) ギフチョウ幼虫は旧葉でも正常に生育できるか?—Part 2	C109 ○八木剛(兵庫県立人と自然博)・安岡拓郎(神戸大・農・昆虫) ヒメボタルと発光時刻の地理的変異	D109 ○黄国華・広渡俊哉(大阪府大院・昆虫)・王敏(華南農業大) 中国南部および東南アジアの <i>Dinica</i> 属(鱗翅目、ヒロズコガ科)
13:15	A110 濱西洋(三田市) サイジョウハムシドロバチ, <i>Symmorphus apicioratus</i> (Cameron), のpreyレンジ:マイナーpreyに関する追加報告	B110 ○泉洋平・積木久明(岡山大・資生研) ニカメイガ幼虫における体液浸透圧の変化	C110 ○川村清久・大野豪・原口大(沖縄防技セ)・小濱継雄(沖縄農研セ)・杉本毅(近畿大・農) 南西諸島におけるアリモドキゾウムシの色彩型にみられる地理的変異	D110 ○水川瞳(大阪府大院・生環・昆虫)・橋本里志(愛知県) 紀伊半島と愛知県でカバノキ科植物を寄主とするスイコバナガ
13:30	A111 高須啓志(九大・農) 幼虫寄生蜂オオタバコガコムバチの匂い探知能力	B111 ○吉安裕(京都府大・院・農)・坂巻祥孝(鹿大・農・昆虫) 潜葉摂食をするアミトガリノメイガの幼虫(鱗翅目:ツトガ科)	C111 ○丸山宗利(国立科博)・松本崇・市岡孝朗(京大・人間環境) ツヤヒメサスライアリと共生するハネカクシ-すばやい形態の進化(ハチ目,アリ科;甲虫目,ハネカクシ科)	D111 ○那須義次・岡田清嗣(大阪府立食とみどりの総合技術センター) アゲハモドキガ科(鱗翅目)の幼虫・蛹の形態とワックス分泌
13:45	A112 ○小出哲哉(愛知農総試)山田佳廣(三重大・生物資源)・山下文秋(愛知農総試) 野外におけるマルハナバチ女王誘引巣箱の有効性	B112 井戸宏・○藤山静雄(信州大・理・生物科学) アズミキシタバの生活史について	C112 末吉昌宏(森林総研九州) Phaeomyiidae(双翅目ヤチバエ科)の東アジアからの発見とヤチバエ科の初期進化	D112 ○上田恭一郎(北九州市立自然史・歴史博)・矢後勝也(京大・理・進化系統) シンジュキノカワグループの検討
14:00	A113 ○広瀬義躬(九大)・広瀬泰子(宗像市) 越冬後にミツマタとキブシの花を訪れるタテハチョウ科成虫の行動	B113 白井洋一(農環研) クロモンキノメイガ(ノメイガ亜科)の繁殖・飛翔スケジュール	C113 ○佐藤信輔(九大・農)・湯川淳一(九大) ブナの葉にゴールを形成する <i>Mikiola</i> 属(ハエ目:タマバエ科)の2新種とヨーロッパブナにゴールを形成する <i>Mikiola fagi</i> との系統関係	D113 ○杉本美華(京大・理・動物)・三枝豊平(福岡市)・Mahadimenakbar M. Dawood(九大・比文・生物体系) マレーシアから発見された <i>Eumasia</i> 属の2新種について(鱗翅目・ミノガ科)
14:15	A114 井出純哉(京大院・農・昆虫生態) ベニシジミの活動開始時刻に見られる雌雄差	B114 原田豊(池田高等学校) 樹上営巣性アリ数種の分巢について	C114 ○湯川淳一(九大)・我那覇智子(沖縄県病害虫防除技術センター)・上地奈美(沖縄農研セ)・三島美佐子(九大博物館)・佐藤信輔(九大農)・徳田誠(産総研) ゴール形成性タマバエ類(ハエ目:タマバエ科)における種分化の「きっかけ」	D114 神保宇嗣(東大院・総合文化・広域システム) <i>Daemilus</i> 属(鱗翅目・ハマキガ科)の分類学的研究:新北区との関連性
14:30	A115 ○島内円夏(鹿大・農)・上和田秀美・福田健(鹿児島農総セ)・坂巻祥孝・津田勝男・櫛下町鉦敏(鹿大・農) 処女雌を誘引源とし、ムシダス®を用いたハスモンヨトウの生殖行動の解明	B115 ○高須賀圭三(愛媛大・農・昆虫)・松本吏樹郎(大阪自然史博) マダラコブクモヒメバチ <i>Zatypota albicoxa</i> (Walker, 1874)の生態および飼育実験による発育速度・光周反応の解明(Ichneumonidae; Pimplinae)	C115 ○坂神たかね・大野豪(沖縄県病害虫防除技術センター)・中島裕美子(琉大COMB)・小濱継雄(沖縄農研セ) 沖縄および周辺地域の <i>Bactrocera</i> 属のPCR-RFLPを用いた分子同定法簡易版	D115 ○斎藤歩希・小島純一(茨城大・理) <i>Eustenogaster</i> 属(スズメバチ科:ハラボソバチ亜科)の種レベルでの分類と地理分布について
14:45	A116 ○前野浩太郎・竹田真木生(神戸大・自然科学)・田中誠二(農生研・生活史制御) サバクトビバッタの性モザイク:オスにモテるがメスが好き?	B116 ○川崎やよい・諸岡由起・宮永龍一(島根大・生物資源) シロスジカクハナバチの生活史と社会構造	C116 河野勝行(国際農研セ沖縄、現 野菜茶研) シロジウジカメムシ種群 ( <i>Dysdercus decussatus</i> species group)は輪状種か?	D116 ○松本吏樹郎(大阪自然史博)・高須賀圭三(愛媛大) 日本産 <i>Zatypota</i> 属の分類学的再検討と寄生習性について(Ichneumonidae, Pimplinae, <i>Polysphincta</i> -group)

第2日目(9/17)午前

	A会場	B会場	C会場	D会場
9:00	A201 ○李哲敏・石井実(大阪府大院・生環・昆虫) 南大阪の緑地における地表性甲虫群集の季節消長と多様性	B201 ○徳田誠・深津武馬(産総研) 「エゴの遅れ花」から推察されるエゴノネコアシアブラムシの植物形態操作機構	C201 ○伊藤毅・秋元信一(北大・農・昆虫体系) 隔離分布を示す <i>Colopha</i> 属アブラムシの系統解析	D201 ○吉村正志(九大・熱研センター)・江口克之(鹿大・総合研究博)・山根正気(鹿大・理)・緒方一夫(九大・熱研センター) ハナナガアリ属 <i>Probolomyrmex</i> の分類への雄アリ形態からのアプローチ(Hymenoptera: Formicidae)
9:15	A202 ○安岡拓郎(神戸大・自然科学)・八木剛(兵庫県立人と自然の博物館) ヒメボタル幼虫を捕獲するためのベイトトラップの開発	B202 ○初宿成彦(大阪市自然史博・大阪市大院・理)・桂孝次郎(大阪市西区)・宮武頼夫(関西大)・森山実・沼田英治(大阪市大・院・理)・大阪市立自然史博物館友の会 クマゼミの発生周期は何年か?(その2)	C202 ○神戸崇・秋元信一(北大院・農・昆虫体系) アブラムシの無性生殖集団における突然変異の蓄積	D202 ○細石真吾・緒方一夫(九大・熱帯農研センター) シリアゲアリ属における腹柄節・後腹柄節の比較形態
9:30	A203 堀繁久(北海道開拓記念館) 台風により生じた森林ギャップの歩行性甲虫群集モニタリング	B203 ○森山実・沼田英治(大阪市大院・理・生物地球) クマゼミとアブラゼミにおける温度による卵休眠調節機構の比較	C203 秋元信一(北大・農・生物生態学体系) ユキムシ(トドノネオオワタムシ; アブラムシ科)における適応度形質としての卵孵化時期に見られる高い遺伝率	D203 ○三田井克志(九大院・生資環・昆虫)・多田内修(九大院・農・昆虫) 日本産キマダラハナバチ属 <i>Nomada</i> (ハチ目:ミツバチ科)の分類学的研究
9:45	A204 石谷正宇((株)建設環境研究所) 草党性ゴミムシ類の種数を推定する1方法	B204 柳本正広・○原田哲夫(高知大・教育・環境生理) アメンボ( <i>Aquarius paludum</i> )成虫の低温耐性に及ぼす生育温度の影響	C204 清水晃(首都大学東京・理工学研究科・生命科学) ヒメクモバチ(ヒメベッコウ)族Agenielliniの系統と進化	D204 ○村尾竜起(九大院・生資環・昆虫)・多田内修(九大院・農・昆虫) 日本産コハナバチ亜属 <i>Evyllaesus</i> (ハチ目:コハナバチ科)の分類学的再検討
10:00	A205 ○橋本佳明(兵庫県立大/人博)・遠藤知二(神戸女子学院大・人間科学)・館卓司(九大・熱帯農研)・山根正気(鹿児島大・理)・マリアティモハメド(マレーシア・サバ大) アリ形グモ群集とモデルとしてのアリ群集多様性:アリ形グモ多様性の鋳型としてのアリ類群集構造	B205 ○石橋貴雅・原田哲夫(高知大・教育・環境生理) 高知産アメンボ( <i>Aquarius paludum</i> )幼虫と沖縄産亜種=アマミアメンボ( <i>A. p. amamiensis</i> )幼虫間の耐寒性・耐熱性比較研究	C205 ○山根正気(鹿大・理)・Syaukani(シアクアラ大)・郷右近勝夫(東北学院大・工)・幾留秀一(鹿児島女子短期大) クラカタウ諸島の昆虫相調査	D205 阿部芳久(京都府立大院・農) ヤドカリタマバチ族(ハチ目:タマバチ科)の1種の分類学的地位と地理的単為生殖
10:15	A206 ○遠藤知二(神戸女学院大・人間科学)・橋本佳明(兵庫県立大/人博)・館卓司(九大・熱帯農研)・山根正気(鹿児島大・理)・マリアティモハメド(マレーシア・サバ大) アリ形グモ群集モデルとしてのアリ群集の多様性:アリ擬態はどこまで有利になるか?	B206 ○井上貴雄・原田哲夫(高知大・教育・環境生理) 飼育温度がアメンボ( <i>Aquarius paludum</i> )の生活史形質に及ぼす影響	C206 ○幾留秀一(鹿児島女子短期大)・郷右近勝夫(東北学院大・工)・Syaukani(シアクアラ大)・山根正気(鹿大・理) クラカタウ諸島の有剣ハチ・アリ相(2005年の調査より)	D206 三田敏治(東京農大) 日本産 <i>Anteon</i> 属の分類学的研究(ハチ目:カマバチ科)
10:30	A207 郷右近勝夫(東北学院大・工) 蒲生干潟砂浜における訪花昆虫相および季節消長	B207 ○吉岡誠人・宮永龍一・星川和夫(島根大院・生物資源) 水域を移動するコムズムシ <i>Sigara substriata</i> Uhlerの生活史 II	C207 大島一正(北大院・農学・昆虫体系) ホストレース間での寄主嗜好性に基づく同系交配の有無と遺伝子流入の可能性:潜葉性蛾類クルミソノガ <i>Acrocercops transecta</i> の例	D207 佐藤真理子(東京農大・院) 日本産 <i>Aulogygnus</i> 属(ハチ目:ヒメコバチ科)の分類学的研究

第2日目(9/17)午前つづき

	A会場	B会場	C会場	D会場
10:45	A208 ○Mahadimenakbar M. Dawood and Kunio Araya (Graduate School of Social and Cultural Studies, Kyushu University) Study on saproxylic arthropod communities in different forest types on Mount Kinabalu of Sabah, Malaysia	B208 ○橋真一郎・渡邊朋也(中央農研) 野外におけるクモヘリカメムシ成虫の休眠覚醒反応	C208 田端純(農環研)・大野豪(沖縄県病害虫防除技術センター)・田付貞洋・石川幸男(東大) フキノメイガ近縁種群の性フェロモンによる交尾前隔離	D208 石崎剛(東京農大・院) 日本産 <i>Semiotellus</i> 属(ハチ目:ヒメコバチ科)の分類学的研究
11:00	A209 岸本年郎(自然環境研究センター) 大台ヶ原における自然再生事業にともなう昆虫類モニタリング	B209 ○長澤淳彦・樋口博也(中央農研・北陸研究センター) スズメノカタビラの穂を用いたアカスジカスミカメの飼育	C209 ○矢後勝也・上島励(東大院・理・進化系統)・平井規央・谷川哲朗・石井実(大阪府大院・生環・昆虫) 日本産チョウ類が1種増えた! ヒメシルビアシジミの提唱—シルビアシジミ属の分子系統解析と形態学的再検討から—	D209 ○奥寺繁(埼玉大院・教育)・林正美(埼玉大・教育) 日本産 <i>Pediopsisoides</i> 属(カメムシ目:ヨコバイ科)の分類学的研究
11:15	A210 ○松村雄(那須塩原市)・浅見和弘・影山奈美子(応用生態工学研)・山下洋太郎(三春ダム管理所) 福島県三春ダムにおけるフクジュソウの訪花昆虫	B210 ○宮下洋子・山田大邦(札幌医大)・渡康彦(芦屋大)・田中一裕(宮城学院女子大)・片桐千帆(北大)・森谷常生(札幌医大) タマネギバエ幼虫の光応答	C210 ○吉尾政信(東大・農)・石井実(大阪府大院・農生)・八木孝司(大阪府大・先端科学・イノベーションセンター) ミトコンドリアDNAの配列変異に基づくナガサキアゲハの個体群構造の解析	D210 ○片桐千帆(北大・低温研)・山田大邦・宮下洋子(札幌医大)・秋元信一(北大院・農) ユキムシ(トドノネオオワタムシ)の綿毛の組成 3
11:30	A211 ○近藤雅典(九大院・比文・生物体系)・木村正人(北大院・地球環境) 久米島のショウジョウバエ相(双翅目:ショウジョウバエ科)	B211 ○田中一裕(宮城学院女子大・学芸)・渡康彦(芦屋大学・教育) タマネギバエの羽化リズム:羽化の位相を前進させる刺激と後退させる刺激が同時に与えられた場合	C211 ○立田晴記(国立環境研)・星崎杉彦(東大・農)・秋元信一(北大・農) 染色体レースは複数回進化した? ~サッポロフキバタの事例~	D211 ○山田大邦・宮下洋子(札幌医大・医・生物)・片桐千帆(北大・低温研・生化)・秋元信一(北大院・農・生態体系学) ユキムシ(トドノネオオワタムシ: <i>Prociophilus oriens</i> )の綿毛と発生基部の構造
11:45	A212 ○中尾史郎(和歌山大・システム工学)・田中美早・山尾あゆみ・木村優(和歌山大・システム工学) なぜオヨギカタビロアメンボは希少なのか?	B212 ○大野豪(沖縄県病害虫防除技術センター)・佐々木智基(沖縄ミバエ)・小濱継雄(沖縄農研セ) 意外と湿りに弱かったイモゾウムシの卵	C212 正木進三(弘前市) 休眠深度はどこまで変異できるのか: ミナミマダラスズの場合	D212 菊原優作(愛媛大院・連合農学・環境昆虫学) 日本産ハラビロヘリカメムシ属 <i>Homoeocerus</i> (カメムシ目:ヘリカメムシ科)の分類学的研究

第2日目(9/17)午後				
	A会場	B会場	C会場	D会場
13:00	A213 ○室井利夫((株)フジ環境サービス)・Bolivar Garcete (Universidad Nacional de Asunción)・山岸健三(名城大・農・昆虫)・前田芳之・小山敏子(Fundación Koyama)パラグアイの自然とハチ目相	B213 ○岡本智恵(九大院・生資環・昆虫)・津田清(南さつま市)・湯川淳一(九大)ヒゲナガアラハダトビハムシとクロアラハダトビハムシ(甲虫目:ハムシ科)の種間交尾	C213 ○鶴崎展巨・高梨真由実・永瀬奈緒(鳥取大・地域・生物)・島田孝(東京農大・農・昆虫)隠岐諸島のザトウムシ相・生物地理・染色体の地理的分化	D213 ○山田量崇・広渡俊哉(大阪府大院・昆虫)日本および東南アジア産ズイムシナガカメムシ亜科(カメムシ目:ハナカメムシ科)の系統分類学的研究
13:15	A214 ○前藤 薫(神戸大・農)・福山研二(森林総研)・S.A. Belokobylskij(ロシア科学アカデミー)・Woro A. Noerdjito(インドネシア科学院)熱帯雨林の衰退と再生にともなうコマユバチ科寄生蜂の多様性と組成の変化	B214 ○岸本圭子・市岡孝朗・酒井章子(京大)・百瀬邦泰(愛媛大)・永光輝義(森林総研)・Het Kaling・Paulus Meleng・Lucy Chong・Abang Abd. hamid(サラワク森林研究所)・山根正気(鹿大)・加藤真(京大)・中静透(東北大)・井上民二(京大)東南アジア熱帯雨林におけるハムシ群集の長期個体数変動様式	C214 ○室洋介(北大院・農・昆虫体系)・中村剛之(栃木県博)・吉澤和徳(北大院・農・昆虫体系)形態およびDNAから見た東日本におけるプライシリアゲの地理的変異(長翅目:シリアゲムシ科)	D214 石川忠(東京農大・農)日本産 <i>Empicoris</i> 属(カメムシ目:サンガメ科)の分類学的研究
13:30	A215 ○久保木謙・緒方一夫(九大・熱研センター)東アジアのサトウキビ畑のアリ相	B215 ○小林知里(京大・院・人環)・深沢遊(京大・院・農)・広瀬大(筑波大・菅平高原実験センター)・加藤真(京大・院・人環)ハギルリオトシブミの共生菌は葉の難分解物質を分解することで揺籃をおいしくしているのか?	C215 吉澤和徳(北大院・農・昆虫体系)やっぱり形態!翅基構造に基づくジュズヒゲムシの系統的位置	D215 中谷至伸(農環研)クロヒョウタンカメムシの同胞種(半翅目:カスミカメムシ科)
13:45	A216 久松正樹(茨城県自然博物館)茨城県の海岸砂丘部における野生ハナバチ相	B216 ○星川和夫・佐々木春香・百崎孝男・宮永龍一(島根大・生物資源)マドボタル属越冬幼虫の耐寒性の地理変異	C216 ○高橋純一(玉大・学術研)・佐々木正己(玉大・農)・松香光夫(玉大・学術研)社会性昆虫における遺伝子組換え体の作成-ソシオジェノミクスへの利用に向けて-	D216 ○山本直・広渡俊哉(大阪府大院・昆虫)・山本優(環境科学)西表島産 <i>Polypedilum</i> 属 <i>Polypedilum</i> 亜属(双翅目,ユスリカ科)の分類学的新知見
14:00	A217 ○北廣俊悟(香川大・農)・頭山昌郁((有)七福)・溝口宙矢・伊藤文紀(香川大・農)都市公園におけるアリ類の種多様性に及ぼす影響	B217 ○八尋克郎・亀田佳代子(琵琶湖博物館)・近雅博(滋賀県立大)カワウの営巣による森林の甲虫群集の変化	C217 ○今野英生・安藤公則・新島恵子(玉大・農)・高橋純一(玉大・学術研)ナミテントウにおける double sex 遺伝子ホモログの単離と解析	D217 岩佐光啓(帯広畜産大・昆虫)インドネシアのツヤホソバエ科 Sepsidae(双翅目):ジャワ島とバリ島から見いだされた2新種とロンボク島の種類相

14:30	<p style="text-align: center;"><b>シンポジウム1 (第2日目)</b>  <b>(共通教育棟1階:101号教室) 9月17日(日) 14:30~17:00</b>  <b>テーマ:「日本列島をめぐる虫たちの移動と分布変動」</b>  <b>—この調査におけるプロとアマチュアの役割—</b>            主催:第66回大会実行委員会、世話人:福田晴夫・山根正気  <b>進行および趣旨説明:</b> 山根正気(鹿大・理)  <b>S201</b> 村田未果(食品総合研究所・食品害虫):長距離移動性蛾類における飛翔能力の生理学的検証  <b>S202</b> 辻和希(琉球大・農):外来性アリ種の侵略性の要因を考える-琉球列島における生態学的研究から  <b>S203</b> 福田晴夫(鹿児島昆虫同好会):アサギマダラの移動調査をめぐって  <b>総合討論</b></p>
-------	---

第3日目(9/18)午前

	A会場	B会場	C会場	D会場
9:30	A301 ○牧野俊一・後藤秀章・井上大成・岡部貴美子・田中浩・大河内勇(森林総研) 落葉広葉樹二次林とスギ人工林におけるハバチ相の比較	B301 ○中井善太・近藤哲也・秋元信一(北大院・農学・昆虫体系) クロマメゾウムシとその寄生蜂がハマエンドウの種子発芽率に与える影響	C301 ○丸山知里・北村憲二・白附愛(島根大・生物資源) 島根県の飯梨川中流域の河川敷での自生ブタクサにおけるブタクサハムシの発生生態	D301 ○上地奈美(学振・沖縄県農研セ)・我那覇智子(沖縄県病害虫防技セ)・湯川淳一(九大) 同属別種のタマバエ(ハエ目:タマバエ科)が同じ植物の同じ器官に同じ形状のゴールを形成する2つの新事例—トウガラシやダイズの莢を加害する <i>Asphondylia</i> 属タマバエの場合
9:45	A302 ○松本和馬(森林総研・多摩森林科学園)・Woro Noerdjito (Pusit Biologi, LIPI)・福山研二(森林総研) バリクパパン近郊の荒廃草原,人工林,天然林および村落のチョウ類群集	B302 新谷喜紀(南九州大・園芸)・園芸昆虫) キクスイカミキリの生活史調節機構	C302 ○小島弘昭(九大総合研究博物館)・金城政勝(琉大・熱生研) ハイビスカスが枯れる! ハスオビコブゾウムシによる被害の現状	D302 須島亮昭(東大・総合文化) ケバエ科日本産 <i>Plectia</i> 属3種の未成熟期の形態
10:00	A303 巢瀬司(シラサギ記念自然史博物館) 見沼たんぼにおける南方系の蝶と北方系の蝶の16年間の増減	B303 ○伊藤昌明(名大院・生命農)・濱口京子(森林総研)・梶村恒(名大院・生命農) 日本列島におけるミカドキウムシの遺伝的構造	C303 ○Ohseok KWON (National Institute of Agricultural Science and Technology, RDA, Korea), Jinyoung PARK, In-Young LEE, Jae-Eup PARK (Nat. Inst. Agric. Sci. Tech., RDA, Korea) Jong-Eun LEE (Dept. Biol. Sci., Andong Nat. Univ., Korea) <b>General biology of <i>Altica caerulelescens</i> (Baly), a potential biological control agent of <i>Acalypha australis</i> L.</b>	D303 三枝豊平(福岡市) 日本産コシボソキノコバエ属 <i>Leptomorphus</i> とその生態 (Diptera, Mycetophilidae)
10:15	A304 ○井上欣勇・平井規央・石井実(大阪府大院・生環・昆虫) 大阪府北部に散在する里山林のクロヒカゲにおけるmtDNAの変異	B304 高部直紀・○梶村恒(名大院・生命農) カシルリオトシブミとヒゲナガオトシブミの葉齢に対する選好性	C304 ○紙谷聡志(九州大・農・昆虫)・奥村正美(門司植物防疫所) レンゲ害虫の導入天敵の分散に関するシュミレーション	D304 ○Tomáš Lackner and Masahiro Ôhara (The Hokkaido University Museum) <b>Revision of the genera of the subfamily Sapriniinae of the Palearctic Region: genitalia comparison and its results</b>
10:30	A305 ○村田浩平・岡本智伸・松浦朝奈(九州東海大学・農) オオルリシジミの発生に及ぼす放牧の影響	B305 ○佐藤智・櫛淵康平・安田弘法(山形大・農) 捕食性テントウムシにおけるギルド内捕食の化学的防御について	C305 舞木紀玲・松山隆志・久場洋之・○小濱継雄(沖縄農研センター) 与那国島におけるナスミバエの防除状況	D305 ○上里卓己(沖縄県病害虫防除技術センター)・小濱継雄(沖縄農研セ) イモゾウムシ・アリモドキゾウムシ幼虫の新識別法
10:45	A306 ○西中康明・石井実(大阪府大院・生環・昆虫) 寄主植物の出現する遷移段階に基づく里山のチョウ類群集の構造解析	B306 ○安田弘法・櫛淵康平(山形大・農) ギルド内捕食者との種間相互作用を中心とした捕食者ギルド構成種の産卵様式	C306 市田忠夫(青森農林総研) 斑点米カメムシのすくいとり精度はセジロウシ成虫数で検証可能か	D306 平野聖(九大院・生資環・昆虫) 日本産ナガクモゾウムシ属(コウチュウ目:ゾウムシ科)の分類学的研究
11:00	A307 井上大成(森林総研) 草刈りの復活は草原性チョウ類を救えるか	B307 ○杉浦真治・牧野俊一・長谷川元洋・榎原寛(森林総研) 小笠原諸島西島においてマレーズトラップで採集された昆虫類	C307 ○守屋成一(中央農研)・Alberto Alma Ambra Quacchia (The University of Turin, Italy) イタリアに侵入したクリタマバチの分布拡大と日本産チュウゴクオナガコバチの導入経過	D307 野村周平(国立科博) アリヅカムシ亜科における雄第9-10腹節の構造と進化(コウチュウ目, ハネカクシ科)

**第3日目 (9/18) 午前つづき**

	A会場	B会場	C会場	D会場
11:15	A308 佐藤隆士(鳥取県立博物館) 盛岡近郊の蝶類の多様性と特定希少種の移動におよぼす国道の影響	B308 磯野昌弘(森林総研・東北) 昆虫調査ツールとしての羽化トラップ	C308 小西和彦(北海道農業研究センター) 北海道のサヤエンドウにおけるハモグリバエ類とその寄生蜂の発生状況	D308 榎原寛(森林総研) 日本に産するテツイロヒメカミキリの分布と学名
11:30	A309 渡辺守(筑波大・生物科学系) 絶滅危惧種・ヒメイトトンボの個体群動態と調査手法		C309 ○笹川浩美(国際科学振興財団FAIS・東京都神経研)・門脇辰彦(名大院・生命農学)・松山茂(筑波大院・生命環境) 社会性行動の獲得・加齢に伴う発達—ミツバチ類の社会性行動と異物認識—	D309 沢田佳久(兵庫県博・昆虫) 兵庫県のゾウムシ相
11:45			C310 ○松山茂(筑波大院・生命環境)・笹川浩美(国際科学振興財団FAIS・東京都神経研) 社会性ハチ目昆虫の情報化学物質 —3-ヒドロキシ脂肪酸経路—	D310 森本桂(福岡市) 小笠原原産ヒメカタゾウムシ族の分類

13:00	<p align="center"><b>シンポジウム2 (第3日目)</b> (共通教育棟1階: 101号教室) 9月18日(月) 13:00~15:30 テーマ:「ファール昆虫記とその後の100年」 「ファール100年展(仮称)」実行委員会および北海道大学21世紀COE「新・自然史科学創成」共催 代表:野村周平(国立科学博物館)</p> <p>S311 遠藤彰(立命館大学理工学部):ファール『昆虫記』の射程—「反進化論」の意味すること</p> <p>S312 郷右近勝夫(東北学院大学工学部):ファールの仕事を引継いだ,日本のハチ学者達とその評価</p> <p>S313 鈴木誠治(長岡技術科学大学):ファールの調べた昆虫の子育て</p> <p>S314 山岡亮平(京都工芸繊維大学繊維学部):ファールも間違えたアリの行列の謎解き</p>
-------	---

	<p align="center"><b>シンポジウム3 (第3日目)</b> (共通教育棟2階: 102号教室) 9月18日(月) 13:00~15:30 テーマ:「外来昆虫への対応を考えるII」 主催:日本昆虫学会自然保護委員会 代表:石井実(自然保護委員長)</p> <p>S321 石井実(大阪府大)趣旨説明:深刻な外来種問題と外来生物法</p> <p>S322 荻部治紀(神奈川県博):外来生物による小笠原の昆虫相の危機的な状況</p> <p>S323 大場信義(大場蛭研究所):ゲンジボタルの遺伝的多様性と放虫の問題</p> <p>S324 荒谷邦雄(九大):外来生物法と植物防疫法、およびワシントン条約が抱える問題点</p>
--	---

## 大会参加者名簿

(7月31日着分まで アルファベット順)

○は懇親会参加者、名前の後の記号は講演番号(発表者のみ)

<b>A</b>		<b>I</b>	
○ 阿部芳久(京都府立大院・農)	D205	○ 市田忠夫(青森農林総研)	C306
○ 秋元信一(北大・農・生物生態学体系学)	C203	市川憲平(姫路市立水族館)	
○ 安藤喜一(弘前市)	B106	○ 一木良子(国際農研)	A105
○ 荒谷邦雄(九大院・比文)	S324	○ 井出純哉(京大院・農・昆虫生態)	A114
		池崎博文(長崎女子短大)	DW202
<b>E</b>		○ 幾留秀一(鹿児島女子短期大)	C206
○ 遠藤彰(立命館大・理工学)	S311	○ 井上栄明(鹿児島農総セ)	
遠藤知二(神戸女学院大・人間科学)	A206	井上牧子(神戸女学院大・人間科学)	A109
		井上貴雄(高知大・教育・環境生理)	B206
<b>F</b>		○ 井上大成(森林総研)	A307
○ 藤山直之(北教大・函館・生物)	A103	○ 井上欣勇(大阪府大院・生環・昆虫)	A304
○ 藤山静雄(信州大・理・生物科学)	B112	○ 伊勢巳希子(北教大・函館・生物)	A102
○ 福田晴夫(鹿児島昆虫同好会)	S203	石橋貴雅(高知大・教育・環境生理)	B205
○ 福谷美智(大阪府大院・生環・昆虫)	A107	○ 石井実(大阪府大)	S321
		○ 石川忠(東京農大・農)	D214
<b>G</b>		○ 石谷正宇((株)建設環境研究所)	A204
○ 後藤秀章(森林総研九州)	FW201	○ 石崎剛(東京農大院)	D208
○ 郷右近勝夫(東北学院大・工)	A207, BW201, S312	○ 磯野昌弘(森林総研・東北)	B308
		磯脇桃子(鹿大・理)	GW301
<b>H</b>		○ 伊藤文紀(香川大・農)	AW302
○ 濱西洋(三田市)	A110	○ 伊藤昌明(名大院・生命農)	B303
○ 浜島健二郎((株)ハート)		伊藤元己(東大院・総合文化)	CW301
花塚正裕(北大院・農・昆虫体系学)	A106	○ 伊藤毅(北大・農・昆虫体系学)	C201
原田哲夫(高知大・教育・環境生理)	B204	岩井幸夫(神戸大／現, 東洋紡)	GW201
原田豊(池田高等学校)	B114	○ 岩佐光啓(帯広畜産大・昆虫)	D217
○ 橋本恵(九大院・比文・生物体系)	D108	○ 岩崎浩明(九大院・比文・生物体系)	D107
○ 橋元祥一(鹿児島農総セ・果樹)		岩田眞木郎(九州東海大学・農)	BW202
○ 橋本佳明(兵庫県立大・人博)	A205	○ 岩田昇(大阪府大院・生環・昆虫)	B103
○ 畑田彩(総合地環研)	B109	○ 岩田隆太郎(日大・生物資源)	
○ 林正美(埼玉大)		泉洋平(岡山大・資生研)	B110
樋口弘道(宇都宮市)			
○ 平野聖(九大院・生資環・昆虫)	D306	<b>J</b>	
○ 平嶋義宏(福岡市)		○ 神保宇嗣(東大院・総合文化)	D114, AW202, CW303
○ 平田慎一郎(きしわだ自然資料館)	B105		
○ 広瀬義躬(九大)	A113	<b>K</b>	
○ 広渡俊哉(大阪府大院・生命環境・昆虫)		○ 加賀谷悦子(森林総研)	C101
○ 久松正樹(茨城県自然博物館)	A216	○ 梶村恒(名大・院・生命農)	B304
○ 堀繁久(北海道開拓記念館)	A203	○ 紙谷聡志(九州大・農・昆虫)	C304
○ 星川和夫(島根大・生物資源)	B216	○ 上和田秀美(鹿児島農総セ)	
保科英人(福井大・教育地域科学)	EW301	○ 金井賢一(鹿児島県立大島高校)	
○ 細石真吾(九大・熱帯農研センター)	D202	○ 金沢至(大阪市自然史博)	
○ 細谷忠嗣(京大・院・理)	C104, EW303	○ 神戸崇(北大院・農・昆虫体系)	C202
○ 黄国華(大阪府大院・昆虫)	D109	○ 金子順一郎(沼田市)	
		○ 荻部治紀(神奈川県博)	S322

○ 片桐千仞(北大・低温研)	D210,GW203	○ 松本吏樹郎(大阪市自然史博)	D116
○ 勝山礼一朗(九大院・比文・生物体系)	D106	○ 松村雄(那須塩原市)	A210
河上康子(高槻市)		○ 松山茂(筑波大院・生命環境)	C310
川北篤(京大・院・人環)	FW301	○ 三田敏治(東京農大)	D206
○ 川村清久(沖縄県病害虫防除技術センター)	C110	○ 三田井克志(九大院・生資環・昆虫)	D203
○ 川崎やよい(島根大学・生物資源)	B116	三浦徹(北大・地球環境)	FW203
○ 菊原優作(愛媛大院・連合農学・環境昆虫学)	D212	○ 宮永龍一(島根大・生物資源)	
○ 菊田尚吾(北教大・函館・生物)	C108	○ 宮下洋子(札幌医大)	B210
○ 岸本圭子(京大)	B214	○ 宮武頼夫(樺原市)	
○ 岸本年郎(自然環境研究センター)	A209,DW203,AW304	○ 水川瞳(大阪府大院・生環・昆虫)	D110
○ 北原正彦(山梨県環境科学研究所)	T101	望月雅俊(果樹研ブドウ・カキ)	
○ 北廣俊悟(香川大・農)	A217	○ 森本桂(福岡市)	D310
○ 北村憲二(島根大学・生物資源化学部)		○ 守屋成一(中央農研)	C307
○ 北村徳一(都立大院・理・生物)	C103	○ 守屋節男(広島大・院・国際協力)	
○ 小林知里(京大・院・人環)	B215	○ 森山実(大阪市大院・理・生物地球)	B203
小林憲生(北大・総博)	C102	○ 村尾竜起(九大院・生資環・昆虫)	D204
○ 小林隆人(宇都宮大)	GW304	村田浩平(九州東海大学・農)	A305
○ 小濱継雄(沖縄農研センター)	C305	○ 村田未果(食品総合研究所)	S201
○ 河野勝行(国際農研セ沖縄／現 野茶研)	C116	○ 室洋介(北大院・農・昆虫体系)	C214
小出哲哉(愛知農総試)	A112	○ 室井利夫((株)フジ環境サービス)	A213
○ 小島弘昭(九大総合研究博物館)	C302		
○ 近藤雅典(九大院・比文・生物体系)	A211	<b>N</b>	
○ 小西和彦(北海道農業研究センター)	C308	長澤淳彦(中央農研・北陸研究センター)	B209
今野英生(玉大・農)	C217	中原正登(佐賀県立宇宙科学館・博物館)	AW204
○ 小汐千春(鳴教大・理科)		○ 中井善太(北大院・農学・昆虫体系)	B301
○ 久保木謙(九大・熱研センター)	A215	○ 中峯浩司(鹿児島県博)	
○ 工藤慎一(鳴教大・理科)		中尾史郎(和歌山大・システム工学)	A212
○ 熊谷信晴(鹿児島昆虫同好会)		○ 中谷至伸(農環研)	D215
○ 櫛下町鉦敏(鹿大・農)		○ 那須義次(大阪食とみどり技セ)	D111
○ 沓掛磨也子(産総研・生物機能工学)	CW202	○ 二町一成(鹿児島昆虫同好会)	
○ 桑原大樹(大阪府大院・生環・昆虫)	B107	○ 新部一太郎(島根大・生物資源)	B101
○ Ohseok Kwon (NIAS, RDA, Korea)	C303	○ 新穂千賀子(兵庫県立大)	
		新美輝幸(名大・院・生命農)	FW202
<b>L</b>		○ 二宮朋也(北大・低温研)	
○ Tomáš Lackner(北大総合博物館)	D304	○ 西中康明(大阪府大院・生環・昆虫)	A306
李哲敏(大阪府大院・生環・昆虫)	A201	○ 野村周平(国立科博)	D307,EW202
		○ 沼田英治(大阪市大・理)	
<b>M</b>			
前川清人(富山大・理)	D102	<b>O</b>	
○ 前野浩太郎(神戸大・自然科学)	A116	○ 大場信義(産総研関西セ／大場蛍研究所)	A101,S323
○ 前藤薫(神戸大・農)	A214	○ 大原昌宏(北大総合博物館)	
○ Mahadimenakbar M. Dawood(九大院・比文)	A208	大城戸博文((財)九州環境管理協会)	
○ 槇原寛(森林総研)	D308	○ 大野豪(沖縄県病害虫防除技術セ)	B212
○ 牧野俊一(森林総研)	A301	○ 岡島秀治(東京農大・農・昆虫)	
○ 間野隆裕(豊田市矢作川研究所)		○ 岡本智恵(九大院・生資環・昆虫)	B213
○ 丸山知里(島根大・生物資源)	C301	○ 奥寺繁(埼玉大院・教育)	D209
○ 丸山宗利(国立科博)	C111	○ 小野知洋(金城学院大学)	
○ 正木進三(弘前市)	C212	○ 小野田繁(鹿児島昆虫同好会)	
○ 増子恵一(専修大・経営)		○ 大島一正(北大院・農学・昆虫体系)	C207
松林圭(北大・院・理)	C107	○ 大島康宏(九大院・比文・生物体系)	D105
○ 松本和馬(森林総研・多摩森林科学園)	A302	太田有理(北大・院・理)	C106

○ 大和田守(国立科博)

## S

○ 三枝豊平(福岡市) D303  
○ 斎藤歩希(茨城大・理) D115  
○ 坂神たかね(沖縄県病害虫防除技術セ) C115  
坂井誠(共生科学) DW201  
○ 坂巻祥孝(鹿大・農)  
○ 笹川浩美(国際科学振興財団FAIS) C309  
○ 笹川幸治(東大院・農学生命) T102  
○ 佐藤綾(琉大・理) A104  
○ 佐藤真理子(東京農大院) D207  
佐藤智(山形大・農) B305  
○ 佐藤信輔(九大・農) C113  
○ 佐藤隆士(鳥取県立博物館) A308  
○ 沢田佳久(兵庫県博・昆虫) D309  
柴尾晴信(東大院・総合文化) CW201  
○ 鳶 洪(九大院・比文・生物体系学)  
○ 島内円夏(鹿大・農) A115  
○ 清水晃(首都大学東京・理工学研究科) C204  
○ 新谷喜紀(南九州大・園芸・園芸昆虫) B302  
○ 白井洋一(農環研) B113  
○ 初宿成彦(大阪市自然史博／大阪市大・院理) B202  
○ 曾根晃一(鹿大・農)  
○ 末吉昌宏(森林総研九州) C112  
○ 杉本美華(京大・理・動物) D113  
○ 杉浦真治(森林総研) B307  
○ 巢瀬司(シラサギ記念自然史博物館) A303  
○ 須島充昭(東大・総合文化) D302,CW305  
○ 鈴木誠治(長岡技術科学大学) S313  
○ 鈴木雄太(東京農大・昆虫) GW303

## T

○ 田端純(農環研) C208  
橘真一郎(中央農研) B208  
○ 立川周二(東京農大・昆虫)  
○ 多田内修(九大・農・昆虫) AW201,CW302  
○ 高橋元(山口大・理・自然情報科学)  
高橋純一(玉大・学術研・学振PD) C216  
○ 高橋直樹(九大・生防研) EW302  
○ 高井泰(高山市)  
高須啓志(九大・農) A111  
○ 高須賀圭三(愛媛大・農・昆虫) B115  
竹中宏平(長崎大・熱帯医学研) FW302  
○ 田中章(バイエルクroppサイエンス)  
○ 田中一裕(宮城学院女子大・学芸) B211  
田中幸一(農環研) B104  
○ 田中陽介(茨城大・理) B102  
○ 谷川哲朗(大阪府大院・生環・昆虫) B108

田代和馬(池田高校) GW302  
○ 立田晴記(国立環境研) C211  
○ 寺山守(東大) AW303  
土岐和多瑠(東大院・農学生命) C105  
○ 徳田誠(産総研) B201  
○ 友国雅章(国立科博) AW203  
土屋真利子(富山大・理) D103  
○ 津田勝男(鹿大・農)  
○ 辻和希(琉球大・農) S202  
○ 積木久明(岡山大・資生研)  
○ 鶴崎展巨(鳥取大・地域・生物) C213  
○ 塘 研(筑波大・生命環境科学) D101

## U

○ 上地奈美(学振・沖縄県農研セ) D301,GW202  
○ 上田恭一郎(北九州市立自然史・歴史博) D112  
上船雅義(京大・生態研) A108  
○ 植村直幸(九大院・比文)  
○ 上野俊一(国立科博)  
○ 上里卓己(沖縄県病害虫防除技術セ) D305

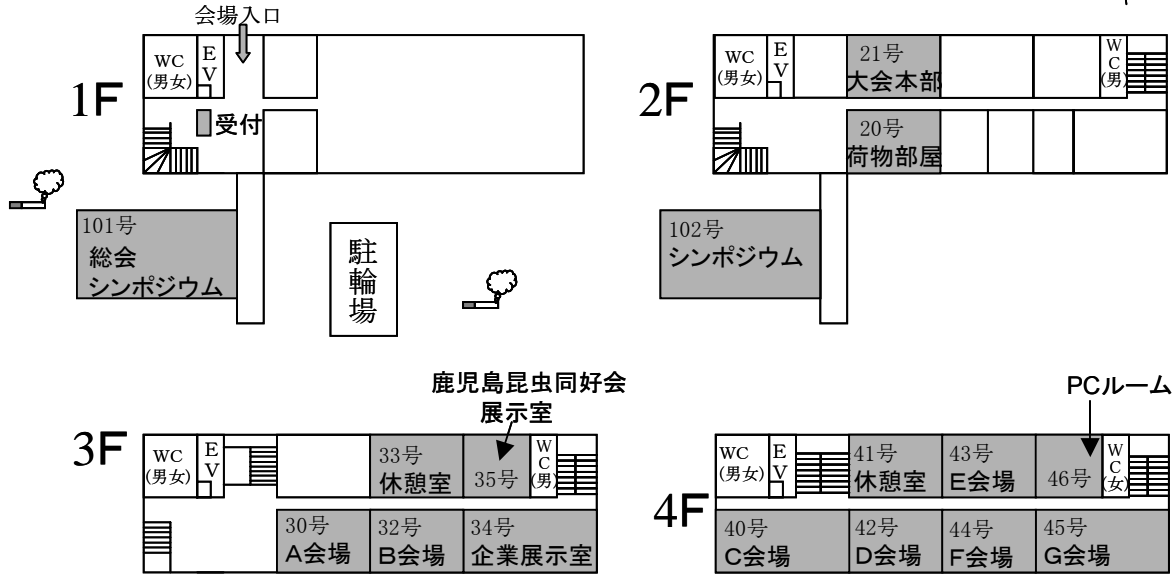
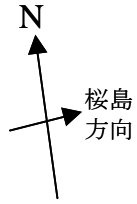
## W

渡辺守(筑波大・生物科学系) A309

## Y

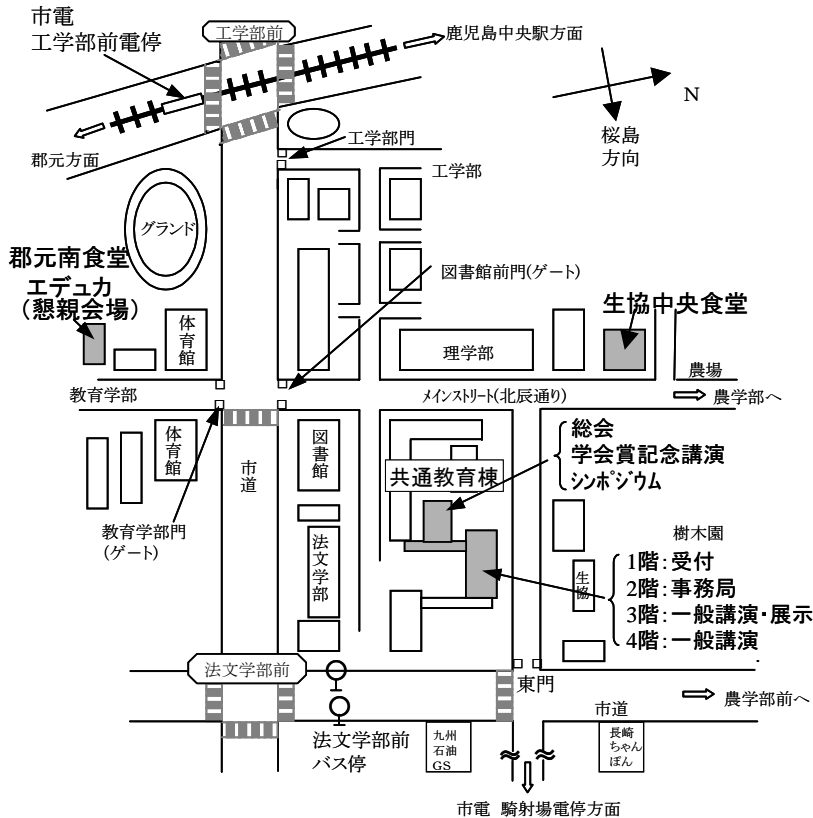
○ 八木剛(兵庫県立人と自然博) C109  
○ 矢後勝也(東大院・理・進化系統) C209  
○ 八尋克郎(琵琶湖博物館) B217  
山田大邦(札医大・医・物理) D211  
○ 山田量崇(大阪府大院・昆虫) D213  
○ 山口卓宏(中央農研)  
○ 山本直(大阪府大院・昆虫) D216  
○ 山本幸弘((株)フジ環境サービス)  
○ 山根正気(鹿大・理) C205  
○ 山岡亮平(京都工芸繊維大・繊維学部) S314  
山下伸夫(東北農業研究センター) EW201  
○ 山内健生(広島大・院・国際協力) D104  
○ 箭内緑(島根大学・生物資源)  
安田弘法(山形大・農) B306  
○ 安岡拓郎(神戸大・自然科学) A202  
○ 矢田脩(九大院・比文・生物体系)  
○ 吉村正志(九大・熱研センター) D201  
○ 吉尾政信(東大・農) C210  
○ 吉岡誠人(島根大・院・生物資源) B207  
吉武啓(東大院・総合文化) CW304  
○ 吉安裕(京都府大・院・農) B111  
○ 吉崎真紀(静岡県茶試)  
○ 吉澤和徳(北大院・農学・昆虫体系) C215  
○ 湯川淳一(九大) C114,BW301

# 会場(共通教育棟)案内図

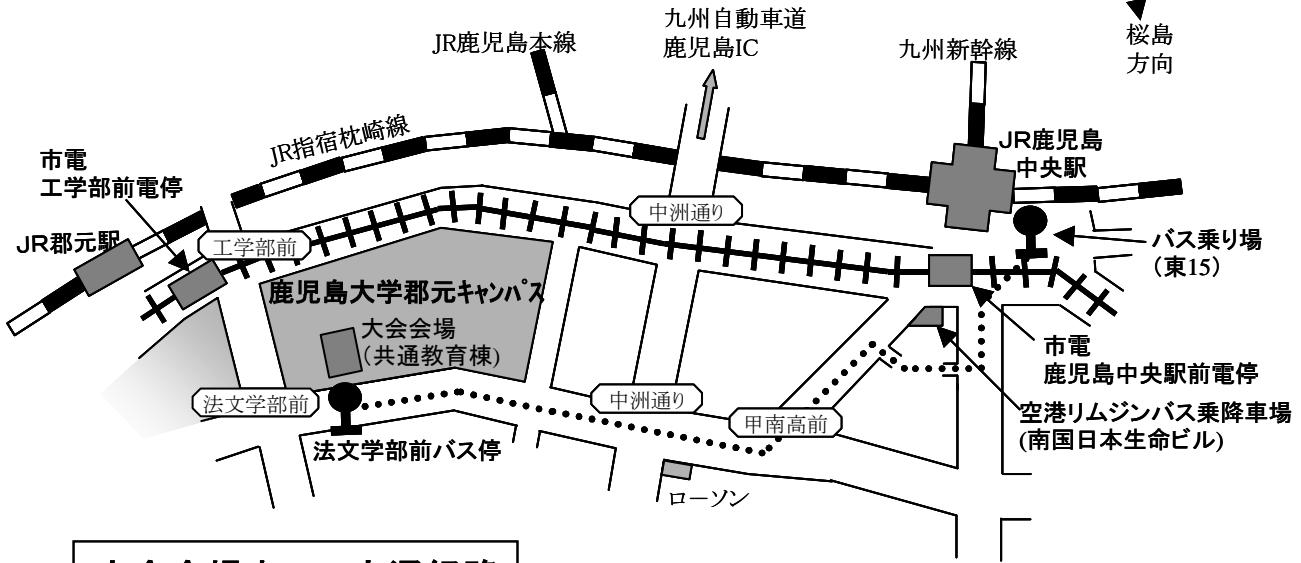


:喫煙指定場所(1F屋外のみ)

# 大会会場周辺図



# 大会会場までの案内図



## 大会会場までの交通経路

### 鹿児島空港からJR鹿児島中央駅まで

鹿児島空港リムジンバス(乗り場2番、鹿児島市内行き:10-15分おきに運行)に乗り、JR鹿児島中央駅まで  
 ・所用時間45分~60分、片道料金1,200円

### JR鹿児島中央駅から大会会場まで

#### ・市電利用の場合

「桜島口(東口)」に出る  
 ↓  
 「鹿児島中央駅前」電停  
 ↓  
 「郡元行き」乗車  
 ↓...約10分  
 「工学部前」下車(160円)  
 ↓  
 会場まで徒歩約5分

#### ・バス利用の場合

「桜島口(東口)」に出る  
 ↓  
 「東15」乗り場  
 ※地下通路~出口B  
 ↓  
 「⑨、⑪、⑳系統」乗車  
 ↓...約10分  
 「法文学部前」下車(180円)  
 ↓  
 会場まで徒歩約2分

#### ・JR指宿枕崎線利用の場合

指宿枕崎線ホーム  
 ↓  
 「喜入・指宿・山川方面」乗車  
 ↓...約3分  
 「郡元駅」下車(160円)  
 ↓  
 会場まで徒歩約10分

#### ・徒歩の場合

「桜島口(東口)」に出る  
 ↓  
 会場まで25分~30分

### 市内天文館方面から大会会場まで

#### ・市電利用の場合(天文館電停より)

「鹿児島中央駅経由郡元行き」乗車  
 ↓...約20分  
 「工学部前」下車(160円)  
 ↓  
 会場まで徒歩約5分

#### ※「交通局経由谷山行き」に乗車した場合

↓...約20分  
 「騎射場」下車(160円)  
 ↓  
 会場まで徒歩約15分

#### ・バス利用の場合(天文館バス停より)

鹿児島市営バス「⑪系統」乗車  
 ↓...約20分  
 「法文学部前」下車(180円)  
 ↓  
 会場まで徒歩約2分